緊急問題

雜誌本位か？運動本位か？

各支部に贊否を問ふ

友愛會は勞働團體であつて雜誌屋で無い。友愛會の會費は會費であつて、雜誌代では無い。雜誌は配附してもしなくても、會費は納附すべきものである。雜誌は會員外の者には一部十五錢で賣るが、會員には無代進呈するのである。

之れは明々白々の事であるが、未だ勞働者の自覺の程度の低かつた時代には、其啓發運動の爲めに本會本部の收入の大部分を機關雜誌に投じ、雜誌本位で運動を爲した時代があつたので、幾分外部の人の誤解を招いた樣であつた（或る在米同胞の人は海外に於て出版された勞働年鑑に日本には勞働團體はない勞働團體と自稱する友愛會は其の實雜誌屋であると罵聲を放つに至らしめし如き著しき誤解がある）此れは不幸にして獨り此の人のみの誤解で無く甚だしきに至つては本會々員中にも會費醵出の義務を雜誌購讀料と想ひ違ひして居るに非ざるかを想はしむる樣な人も適見ないでもなかつた此の事は實に吾々心ある者の甚だ心外に堪へない事があつたのみならず一面には會費の大部分を出版に支出する關係上會計の困難は實に一通りでなく仲々進んで將來の計を樹つるなど思ひもよらぬ事で實に大なる苦痛である。で此件に就て昨年の大會に京都支部其他二三支部の提案のあつた事は會員諸君の御記憶である事を信ずる。本部に於ても事務會議毎に研究議論の中心となりつゝある。各支部會員諸兄の間にも漸く輿論として表はれんとしつゝあるものの如くに認めて居るのであるが種々なる理由に依つて遂に今日に至つたのであります。然るに今回卷頭所載の如き厄に遭遇し直に本號外出版の事を議するに及び同人中豫ての懸案たりし雜誌中心の運動を廢し專ら實際運動に進むの可なるを主張する者多く遂に今回本部の名を以て左記の案に對し一般會員諸兄より殊に支部として纒まりたる贊否の御回答を煩し而して一層愼重に熟議の上之れが可否を決せんとする次第である

一、勞働及產業は現在菊版約五十頁の雜誌體なるも之れを菊版十六頁の『稍紙質を好くし』舊友愛新報型とし之れに依つて節減し得し出版費の三分の一宛を左の如くに割當處分する事

二、基金を積立る事（但し確實なる銀行へ預入）

三、本部員を增員し重要なる地方に特派する事

四、實際運動費旅費等に宛つる事

同人偶語

●勞働者と庚申猿　久留生

古臭い三猿主義……それが日本現在の勞働者に其の儘適用せられるから情けない。

勞働者は見ちやいけない。聞いちやいけない。叫んぢやいけない。庚申堂の猿を崇拜せよ。

ストライキといへば治安警察第十七條にしばられ、新らしい思想を紹介すれば新聞紙法で發賣禁止を命ぜらる。

猿の運命、憐むべき哉。

●勞働は商品に非ず　松岡生

近頃偉い人達や正直な勞働者が勞働は商品に非ずなど進んだ外國の勞働者を眞似て居るものが大分ある實は自分も正直な一人の勞働者であるがしかし外國の勞働者の商品に非ずと主張する其の思想は一體何處から來たか。偉い人達も正直な勞働者も考へ見るが好い。勞働は神聖だ自分は固く信ずる夫れは勞働に依りて生產された物が直に人類の幸福の爲めに消費される事を前提として神聖なのだ然り勞働即ち人格で神聖である然し日本の勞働者たる吾々は商品に非ずと威張された義理か。しかも商品としてさへ完全な取扱をさへも受けて居ない吾々が、自分の勞働力の生產費第二の自分である小供を育てる一種の（償却費）此れ等に相當する代價を得て賣つて居るか先づ此の事を考へ見やうではないか。

●會費と雜誌代　菊地生

會費を雜誌代と間違つてゐた會員が、以前にはあつたので、雜誌が届かないと會費を納めない會員も多いなかにはありはしまいかと、いさゝか心配したが發賣禁止見舞に來られた多數の人々は會費不拂なぞは問題ではありません、今時そんなわからない會員は無いと、自信深く語られるのみでなく、返つて發賣禁止を喜んでゐるやうな人もあるので發賣禁止祝賀會費でも寄附する人が出られるやうに思はれて、今度は其方が心配になつた。

◉代理部より

品切中の左記の物出來ました。御注文を乞ふ。

■上等徽章（銀臺七寶入）

■時計用メタル（金メッキ七寶入）

以上定價各金四十錢

■大正七年『勞働及產業』合本

定價金一圓五十錢

■工場法釋義　第四版

■勞働題早わかり　第三版

以上改正定價各二十五錢、但し支部には二十錢

特製

友愛扇子

今般、會員諸君の御希望に依り、特製友愛扇子を作製させて、會員諸君に特に實費を以て頒ちます。夏は誰しも必要な扇子、それに鈴木會長揮毫の本會綱領が刷込むでありますので、横暴な暑熱を本會の淸涼なる精神を以て征服することが出來ます。賣り切れぬ中にお早くお買求めを乞ふ。

定價は一本金二十二錢

■平澤紫魂君著

創作『勞働問題』人民書院發行

定價　金壹圓也　會員には送料共にて九十錢に割引す

本會出版部長平澤君の創作集が發行されました

今正に日本に生れんとしてゐる新藝術は勞働者本位の藝術であります『勞働問題』は其第一の生聲をあげたのであります。